

KJA DOJO PROJECT

KJA道場プロジェクト





PURPOSE パーパス

01

柔道の最善活用「機会格差」の排除

「療育」「保育」に特化した柔道の構築。様々な経験の場とし、その経験の一つとして柔道がある。できないことを探すのではなくできることを求め、何事にも挑戦する機会作りを心掛けていきたい。また、保護者へのサポートも並行して行い、安心して子供の成長を見届けることができる道場としていく。

02

柔道とのタッチポイントを増やす活動

柔道とのタッチポイントを社会全体で増やすことを目的としています。柔道との接点を多角的につくることで、より多くの人たちが柔道に親しみやすくなります。具体的な取り組みとして、地域イベントへの参加や学校（幼稚園・保育園）との連携です。地域イベントでは、柔道のデモンストレーションや体験ブースを展開し、柔道に対する興味を持ってもらいます。学校では、柔道クラスやワークショップを通じて、子供たちに柔道の基本を学ぶ機会を提供します。これらの活動を通じて、柔道の存在と意義が社会に深く根付くことを目指します。



KEIJI SUZUKI

KJA 代表 / 柔道家

鈴木 桂治 KEIJI SUZUKI

茨城県出身
国士舘中学、国士舘高校、国士舘大学
国士舘大学大学院 スポーツシステム研究科
早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
柔道男子日本代表監督
2004年アテネオリンピック柔道男子 100kg 超級金メダリスト



STORY ストーリー

「療育」の場

今年9月に鈴木家に第4子が誕生いたしました。第4子はダウン症と心臓に疾患をもって生まれました。出産して次の日には入院をし、3か月後には心臓の手術をしました。その際に先生に言われた言葉が私の心を動かしました。「ダウン症を持っている子は寿命が60年くらいです。また、自殺者も多いです。自分自身に嫌気がさしたり、存在感を否定してしまって自殺するケースが多いです」と。私は驚きよりも、この子をどうやって育てて幸せにしようか。人に任せていたら結局同じことの繰り返しになってしまうのか?と考えると、自分が信用している人と、自分が信じている柔道を使って幸せにできないか?と考えました。

2021年10月から keiji judo academy 「KJA」という柔道スクールをスタートしました。KJAの本部を作りその本部柔道場を「療育」の場として、たくさんの子供たちと触れ合っていきたいと考えています。柔道だけでなく様々なことに挑戦し、皆で達成し喜びや難しさを感じる場にしたい!と。不可能などない。挑戦・達成・感動を皆で分かち合える場にしていきます。

「機会格差」を無くす場

私の妻も実際に出産直後から子供が入院してしまい実感がなかなかかわかず、不安になったり産んだことを後悔するような発言をするときもありました。また、近所や幼稚園などにもそういった悩みを持つ保護者がたくさんいます。そしてそういった保護者は「この子には無理。迷惑をかけてしまうから」など、どんどん子供の挑戦の場をなくしてしまっています。私の考える療育では何事にも挑戦をして、成功という感動や経験をどんどんつくり、みんなで喜べる環境作りをしていきたいと考えています。保護者の為の場所!でもありたいなど。不可能などない、挑戦・達成・感動を皆で分かち合える場にしたい。柔道という武道を通して、「自他共栄」の精神で、健康者、障害者の枠を超えた道場にしていきたいと考えています。

KJA DOJO

KJA 道場

多様な機能を持つ未来型道場

KJA は、町田市鶴川に地域社会との新しいつながりを築くための KJA 鶴川道場を設立します。この道場は、従来の柔道道場の枠を超え、多様な機能を持つ未来型の施設として構想しています。

THERAPEUTIC 療育施設

子供たちの「機会格差」を無くす

子供たちに様々な挑戦の場を作り、何事にも前向きにチャレンジできる環境。子供たちの個性を尊重し成長をサポートできる環境。

JUDO 次世代柔道教育

競技性だけでなく、 柔道の魅力を伝える活動

「精力善用」「自他共栄」の精神を持ち、自分の為、人の為に活躍できる人材育成。

MEDIA メディア制作拠点

KJAの価値観や可能性を発信する

KJA の価値観や可能性を発信する。SNS「YouTube」「インスタグラム」等の発信において KJA の発信を行う。柔道や様々な活動を認知されること、様々な分野とコラボし活動の幅を広げていく。

OPEN SPACE オープンスペース

子供たちの個性が発揮できる場所

子供たちが自由に遊び、遊びの中から発見をする場所。柔道以外のアクティビティやワークショップを行い子供たちの可能性を最大限に発揮できる場所。

COMMUNITY コミュニティ

地域コミュニティとして

道場が地域の中心となり地域全体で子供たちをサポートする。大人も巻き込んだ柔道、ワークショップ・他競技を行い皆で助け合い成長できる場所。

LABO ラボ

新しい柔道の形づくり・プログラム

柔道の可能性を最大限にする。療育・学童・保育に柔道を活用し健康な身体と豊かな心を身につけるサポートをする。

PROGRAM プログラム

01 療育に関するアカデミー

機会格差を無くし皆が挑戦できる場所

柔道場を活用し、走る・寝転ぶ・などの動きから柔道の動きまでを楽しく伝える。また、他の運動プログラム（例クライミング・サッカーなど）を用いて、何事にも挑戦する環境を作り共に挑戦し強さを身につける。経験を積み自信に繋がり大きく成長する。

03 KJA大人の柔道教室

健康促進、人脈形成、強さつながりを生みさらに成長

大人を対象とした、健康維持、友情、コミュニティの構築を目的としたクラスを設けます。同じ価値観を持つ仲間との絆を深め、柔道を通じて自分自身の成長を実感する機会を得ます。

教室では、ビジネスと社交の面でのネットワーキングイベントを定期的で開催し、メンバーが柔道を通じて多様な人々と出会い、人脈を広げる機会を提供します。さらに、柔道を通じての人のつながりは深い結びつきを生むため、より豊かな人間関係の形成に寄与します。

02 KJAキッズアカデミー

技術と精神の成長の融合を楽しみながら

子供用の柔道プログラムを用いて、怪我の防止・心身の成長につなげていくと共に礼節と友達を尊重する心を重視し、柔道を通しての成長をサポートする。また、柔道を通して知り合った仲間と達成感や成功体験を共に共感し人間性・社会性の成長を身につけることも魅力である。

04 Catch the Judoプログラム

「柔道、初めての感覚に触れる瞬間」

「Catch the Judo」は、モバイル量と着やすくグッドデザインの柔道着を採用しその時、その場で柔道を楽しめるプログラムを作ることで、柔道に新たなタッチポイントを生み出し、多くの人にとって身近で手軽なコンテンツとしての柔道を体現します。初めての方でも安心して楽しめる環境が整い、柔道の奥深さと楽しさを体験する門戸が広がります。さらに、外国からの来訪者も視野に入れ、日本から柔道を発信する新しいプログラムとして、国際的に広めるための意欲的な取り組みを推進します。





01 ENTERTAINMENT

柔道の継続とエンターテインメントを融合

動機づけとゲーム感覚での楽しさ

「柔道を続ける動機」セッションでは、賞賛や地域とのつながり、そして競技そのものの楽しさに焦点を当てて議論します。さらに、柔道の練習をゲーム感覚で取り組むことで、参加者は技術的なスキルや精神面での成長を楽しみながら経験することができます。

柔道の可能性を引き出す

柔道の潜在能力を最大限に引き出すために、我々は年間を通じて他のスポーツとコラボレーションし、互いの技術を向上させていくことにチャレンジしていきます。ラボのような役割を担いつつ、新たな柔道の可能性を創出し続けることを目指します。

02 TOUCH POINT

柔道とのタッチポイントを増やす

柔道の新しい視点の普及

今までの柔道界がおこなってきた普及活動ではなく、「柔道のタッチポイントを増やす」ことで社会に柔道の存在や認識を植え付けていくことを目的とします。

移動型のプログラム

人が集まる場所で、ポップアップ的に柔道を体験できるパッケージを創り、リアルでは「柔道のイベントよくやってるな」、SNS ではそれがしっかりと拡散されていき、柔道が活発に動いているイメージを社会に植え付けていきます。柔道をならう人たちを増やすのではなく（ここは全国で出来上がっている仕組み）柔道と1秒以上の接点を持つ方を徹底的に増やしていくことを価値として進めていきます。

